

大学院教育イニシアティブセンターサポートボード収録レポート

2014.3.17 ICT ユニット

概要:

昨年度より引き続き大学院教育イニシアティブセンターのサポートボードを収録し、センターのコンテンツとして、学内配信を行っている。収録はセミナー室に機器を持ち込む形で実施をし、収録したデータはコーポレートキャストサーバで学内配信を行っている。

スケジュール:

【第24回】

期間：2013年4月8日（月）15：30～17：00

場所：総合研究実験棟3階 セミナー室

テーマ：「JAISTにおける教育研究コラボレーションシステムへの取り組み」

話題提供者：長谷川 忍 准教授（大学院教育イニシアティブセンター ICTユニットリーダー）

国内外の教育研究機関と連携した協働型・双方向型教育研究プログラムを効果的に実現するためには、ICTを活用したきめ細やかな教育研究連携体制を確立することが必要不可欠です。今回は本学における教育研究コラボレーションシステムへの取り組みを紹介するとともに、複数の参加者が柔軟にコラボレーションを行えるPC会議システムや講義や会議を簡単に収録できるアーカイブシステムの使い方についてわかりやすく解説します。

(ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/24_poster.pdf)

【第25回】

期間：2013年5月20日（月）15：30～17：00

場所：知識科学研究科 コラボレーションルーム2

テーマ：「研究室教育ポリシーの実質化に向けて」

話題提供者：崔 舜星 特任助教（大学院教育イニシアティブセンター）

本学では昨年度末までに、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、研究室教育ポリシー、ディプロマ・ポリシーの4つのポリシーを制定した。その中でも、研究室教育ポリシーは本学の特色となっている。本発表では、まず、研究室教育ポリシーに記述された、各研究室が取り組むべき活動について言及する。次に、講義シラバスと対比することで、研究室のガイドラインの役割について述べる。また、昨年のFD・SDセミナーにて作成された研究室教育シラバスや、他大学で作成された研究グループシラバスについての分析結果を報告する。最後に、研究室教育ポリシーを実質化する上で、どのような努力を行っていくべきか、フロアと意見を交換する。

(ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/25_poster.pdf)

【第26回】

期間：2013年7月8日（月）15：30～17：00

場所：総合研究実験棟3階 セミナー室

テーマ：「変化しつつある高等教育の展望」

話題提供者：フェスターガード 特任准教授(大学院教育イニシアティブセンター)

高等教育機関は現在、従来とってきた伝統的教育・学習へのアプローチとは全く異なる前例のない教育文化の変化を経験している。教育機関が競争力を保ち、学生にとって魅力的であるとするのであればこの変化に対して何らかの対処をとらなければならない。この変化は、1) 相互作用的/協調的な創造や再創造を可能にするような技術に容易にアクセスできること、2) 国際的な移動可能性の高まり、によって駆り立てられていると云える。本発表では、現在高等教育機関がこの変化に応じるために採っている施策、特に‘学生の学習経験’と‘エンプロイアビリティ(雇用可能性)の資質’を高めるために採られている実践に見られる教育や学習の改革について議論する。ここでは、現在の教育の変化についての展望を踏まえ、JAIST が教育の質を維持し競争力を高め続けるために現在追究しようとしている先進的取り組みについて議論することで結論を導きたい。"私の見解からすると、万一、我々の教育に対するアプローチ方法を根本的に変革させることができなければ、その臆病さゆえに、我々が守ろうとしている同じ仲間の将来は自沈するであろう。これこそ悲劇であろう。"

David Puttnam's speech at MIT, 2012 (ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/26_poster_J.pdf)

【第27回】

期間：2013年9月11日（水）15：30～17：00

場所：総合研究実験棟3階 セミナー室

テーマ：「大学院教育と学士課程教育の接続性について考える」

話題提供者：林 透 客員准教授(大学院教育イニシアティブセンター)

昨今、大学の教学マネジメントの課題は、大学側が提示するポリシーやシラバスを通した学生の学習過程や学習成果をいかに測定するかに注がれている。

大学院生の学習過程や学習成果を測る上において、大学院入学前の学習経験を考慮することは重要である。近年では、理工系分野を中心に、学士課程教育4年と博士前期課程（修士課程）2年を接続した6年一貫の教育プログラムを提示する大学も現れているが、大学院教育と学士課程教育の接続性そのものについて話題にされることは少ない。

2012年度に北陸先端大の大学院生を対象に実施した「学部・大学院の移動意識アンケート調査」を中心に、日本の大学院制度の歴史的経緯を紐解きながら、大学院教育と学士課程教育の接続性に関する重要な観点を抽出し、フロアとともに考えてみたいと思う。

(ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/27_poster_J.pdf)

【第28回】

期間：2013年12月24日（火）16：30～17：30

場所：総合研究実験棟3階 セミナー室

テーマ：「研究室教育の学習目標の可視化によって研究室での学習・指導支援を目指したeポートフォリオと研究学習ガイドライン」

話題提供者：鍋田 智広 特任助教(大学院教育イニシアティブセンター)

大学院研究室においては、学生は研究を通して必ずしも解のない問題に取り組みながら状況に応じて適切に学び、しだいに学びの目標を定め自発的に学ぶことができるようになることが望まれる。しかし、「学び」の初心者・熟達途上の学生は、研究活動に隠れた学習目標を見いだすことができず、なにを学ばば良いかを適切に意識できない状態に陥りがちである。また、教員が、限られた情報と時間で、学生のこの種の問題を洞察し、適切に指導することは容易なことではない。こうした研究室での学びや指導上の障壁の軽快化を目指して、我々は研究活動における学生の学習目標を明示化するeポートフォリオ(研究室教育eポートフォリオ)の開発を進めている。研究室における、1) 学生は学びを振り返り、学習目標の設定・自己評価する、2) 教員は学生の学習目標と自己評価をもとに学習に助言を与える、といった活動について、研究室教育eポートフォリオは、研究活動に隠(さ)れた学習目標について、学生・教員間の可視性の高いコミュニケーションを促す。さらに、研究室における学びについてのガイドラインを提示し、研究活動の状況に応じて学びについての知識の獲得を促した。本発表では、学生と教員間の学びのコミュニケーションの促進機能などの研究室教育eポートフォリオの概要を紹介したうえで、研究室での学びのためのガイドラインを利用してeポートフォリオを使用した実践例を挙げて研究室における学生の学びの支援について議論する。(ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/28_poster_J.pdf)

【第29回】

期間：2014年3月17日（月）15：30～17：00

場所：総合研究実験棟3階 セミナー室

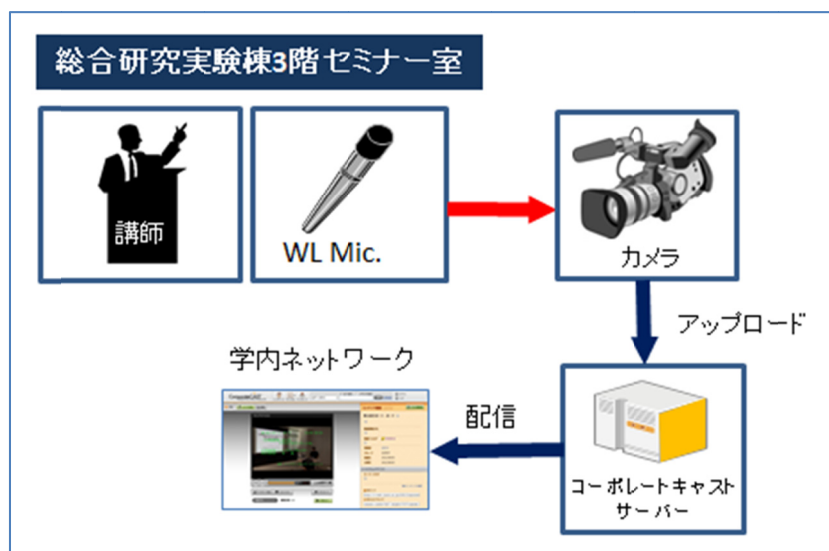
テーマ：「地震・雷・火事・親父」

話題提供者：高木 昌宏 教授(大学院教育イニシアティブセンター)

従来、「うつ病」とは、几帳面・生真面目・小心な性格を示す人が、無理を重ね発症する無気力で自虐的な状態と言われていた。しかし「現代型うつ」という状態があり、これは、自分を責めるのではなく上司のせいにする(他罰性)、仕事は休むが飲み会や旅行には出かけるというのだ。私のような門外漢が、「怠け者」とある人を評すれば、「現代型うつ病患者」と呼びましよう専門家擁護するのだろうか？この過度の寛容さ、優しさに危機感を感じるのは、私だけでは無いはずだ。「優しさ」や「愛」には、2種類あると思う。母性愛と父性愛、絶対的許容と絶対的価値とでも言える「優しさ」や「愛」である。父性的な愛とは、「畏怖」とも言えよう。八百万の神(自然)に対する、感謝と尊敬、そして恐怖の念である。簡単に言えば、「地震・雷・火事・親父」である。本日の講演では、自我の確立と絶対的価値について、皆さんと考えてみたいと思います。

(ポスター：http://www.jaist.ac.jp/cgei/report/doc/29_poster_J.pdf)

構成図：



受講の様子：

